

「防災意識」を 高めるために

日本は世界でも有数の自然災害の多い国であり、平成23年3月の東日本大震災、平成26年9月の御嶽山の噴火、平成27年9月の関東・東北豪雨による鬼怒川の堤防決壊など、近年も甚大な被害が発生しました。このような自然災害が鴻巣市でいつ発生しても不思議ではありません。

鴻巣市は、荒川、利根川という二大河川にはさまれていることから、台風や集中豪雨による風水害に注意を払う必要があります。また、東京湾北部を震源とする地震が、今後30年の間に70%の確率で発生するといわれており、鴻巣市でも最大で震度5強の揺れが予想されています。

このような災害が発生した際、その被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助の役割分担と相互連携により、災害対応力を高めることが必要です。

自助とは、「自分の身は、自分で守る」こと、共助とは、「自分たちの地域は、自分たちで守る」こと、公助とは、市をはじめとして警察・消防・県・国といった行政機関やライフライン各社などの機関の応急対策活動のことです。

この中でも、市民の皆さん一人ひとりが、「自分の身は、自分で守る」という自助の意識を高め、日頃から災害に備えることが大変重要となります。

その一環として、このたび発刊しました「みんなの防災手帳」・「鴻巣市防災マップ」を、ご家庭での防災活動にご活用いただければ幸いです。

鴻巣市長
原口 和久